

「通いの場」通信

Vol.25

令和3年10月28日発行

岡山県に緊急事態宣言やまん延防止措置が発令されていた夏の時期を乗り越え、県内の感染状況が落ち着いてきたことから、10月からは活動を再開される通いの場が増えました。引き続き感染対策を行いながら、コロナ禍でも工夫してつながりを保っている事例を紹介します。

通いの場での*互近助パントリーの活用 広がってます

*「互近助パントリー」とは善意で寄せられた食材や生活雑貨を地域の身近なご近所で活用し互いに助け合う活動に活かす取り組みです



船穂地区や真備地区のサロンでは、社協の「互近助パントリープロジェクト」と連携して、サロン開催時にシェア会を実施しているところがあります。互近助パントリーで集まったものだけでなく、地域の方からも野菜や食材が集まったりします。場に来れない人や気になる人にも、気持ちや食材を届ける活動にもつながっています。コロナで普段の生活が難しいなか「あの人とシェアしたい」（つながりたい）という気持ちが、おしゃべりや顔を合わすきっかけになっています。



コロナ禍で通いの場の継続や再開にみんなが悩んでいる今、情報やアイデアもシェアして大変な時期を乗り越えよう！

ヒント



シェア
その1

地域に目を向けると、シェアしたい情報がありました！

通いの場で生まれたいい話もシェア！

児島地区の通いの場では、お一人の参加者が通いの場開催中に転倒。今後の参加について不安の声が聞かれましたが、「どんな状況になろうと仲間外れにはしたくない」と、高齢者支援センターと生活支援コーディネーターを交え、身体にハンデがあっても継続して通い続けるための方法をみんなで模索してきました。そして日本基準寝具(株)による福祉用具についての勉強会や、社会福祉協議会の車イス貸出事業を活用しながら、いつまでも通い続けられる居場所の実現に取り組んでいます。もちろん転倒された方も元気に参加されています。今後は倉敷ボランティアセンターによる出前福祉講座の開催を企画しており、みんなで車イスの操作の方法を学ぶ予定です。



シェア
その2

通いの場のこんなアイデアもシェア！

コロナ禍の通いの場では、感染に気をつけながらできる内容を検討し、手芸に取り組まれるところが増えていました。折り紙やペーパークラフト以外にも、玉島地区ではマスキングテープを活用した作品作りを楽しめている所も♪

マスキングテープでちぎり絵をすると、テープの柄がいい感じで「味」になり、作品に奥行きが生まれます。

マスキングテープがあれば初めての人も気軽に取り組めるので、このような新しい取り組みの材料費などに、ふれあいサロンの補助金を活用するのもいいかもしれませんね。



シェア
その3

通いの場のこんな再開の方法もシェア！



連島の「しんでんサロン」では、コロナが流行してから1年9ヶ月の間活動が行えていませんでした。久々の再開が決まった時に、地域の盛り上げ役で見守り役の西浦サポートトレーダーのみなさんは「長い自粛期間で、サロンに行くのも億劫になっている人もいるのでは…」と、再開のお知らせを会員の家を直接訪ねてチラシを渡す『自宅から引っ張り出す作戦』を行いました。会員のみなさんも「待ったったんよ！」「行くで～！」とうれしい反応。当日も「久しぶりに会えてうれしい」「元気にしちゃった？」とみんなが再開を喜ばれ、これからの活動にも期待が膨らんでいます。



運動

栄養

口腔ケア
つながり

閉じこもりや人との交流の減少は、フレイル（要介護になりやすい状態）になる心配があります。今できる事を取り組み、感染予防同様にフレイルも予防していきましょう。

通信の詳しい内容や通いの場の相談などは、生活支援コーディネーターまでお問い合わせください



問い合わせ先

倉敷市社会福祉協議会 地域福祉課 倉敷市笠沖180番地 ☎086-434-3301